

令和3年度 赤穂市立坂越小学校評価報告書

1. 学校教育目標 **こころ豊かに 夢や目標をもって たくましく生き抜く児童の育成**

2. 本年度の学校(園)重点目標

(1) 基礎基本の定着、対話を通じて学び合う授業による確かな学力を育成するとともにコロナ禍における学びの保障に向けた教育活動を構築する。
(2) 人権を大切に作る学校づくりを推進する。
(3) 心の教育を全教職員並びに外部機関とも連携しながら進める。
(4) 児童・保護者の思いに寄り添い、特別支援教育、児童支援を充実させる。
(5) 家庭と連携して基本的習慣の形成を行い、褒めて育てる教育を推進する。
(6) 新しい生活様式の中でも健康・体力の増進を図り、防災・防犯体制の整備も行う。
(7) 児童・保護者・地域に信頼される開かれた学校づくりを行う。
(8) 学校運営協議会をはじめ、地域住民の参画と協働により学校運営を行う。
(9) 全教職員の共通理解のもと、組織的に教育活動を進める。
(10) 学校業務の工夫・改善を図り、子どもと向き合う時間を確保する。

総合的な学校関係者評価

・コロナの流行により、学校行事は、相次いで中止になり、学校と地域との交流、学校と親との関わりは例年より希薄になっている。行事は少なくなりましたが、学校に行った際に子ども達から返ってくる元気な挨拶や、真剣に授業を聞く姿勢は子どもたちが教師を信頼している証拠だと感じた。

・児童は一人一人好きなことや得意なことが違っており、誰かと比べて劣っているところに目が向いてしまいがちである。違っていて当たり前であることを認める心、苦手なことからも逃げない心を育ててほしい。学力や体力は極端に言えば、後から取り戻せることなので、今の時期にしかできない経験、友達との交流や各種行事を維持してほしい。

・教職員は、協力して日々、細かく一人一人を見てくれているので感謝している。

・実際に見学する機会がなく、評価が難しかった。

・コロナ禍で学校行事が十分に実施できない状況の中、時間の短縮や内容の工夫で取り組めていたと思う。昨年に比べて、子ども達の顔が明るく学校生活が楽しく送れているように感じている。

学校関係者評価

3. 自己評価結果

(A～D)

A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点(重点目標)	◇評価項目(学校園・教師の取組内容) ○評価指標及び目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
(1)確かな学力と学びの保障	◇学習形態や、個に応じた指導方法を工夫し、基礎基本の定着に努めている。 ○児童が、読み書き計算などの基礎基本的な学習について8割以上の習得を目指して、日々の学習やさこしの日などで意欲的に取り組んでいる。	職員アンケート 保護者アンケート	B	・児童の学力定着のために、朝の学習も利用して、基礎基本の習熟を図ると共に、校内研修の充実を図る。 ・さこしの日のねらいを明確にして、児童・保護者に周知を図り、計画的に実施する。 ・研究推進の一環として、ICT研修や実践交流の機会も、定期的に取り入れていく。
	◇児童一人一人が自分の考えをもち、友達との対話を通して学び合う。 ○児童が、自分の考えをもち、授業の中で進んで話し合いに参加し、考えを深めている。	児童・保護者アンケート		
	◇個別最適な学びと協働的な学びを実現するツールとしてのICT活用に向けて、授業改善につなげている。 ○タブレット端末等のICT機器の使用が、児童の学習内容理解や、友達との考えの比較等に、適切に役立てられている。	職員アンケート 児童アンケート		
	◇児童が安心して学校生活を送ることができるようにできるように、児童の人権を保障し、温かい環境作りに努めている。 ○児童が、進んで挨拶ができるような環境があり、委員会活動やスマイル班活動等で、学校生活を楽しく送るための工夫がなされている。	職員アンケート 児童アンケート		
	◇人権が尊重される仲間づくり、学び合いのある授業づくりに努めている。 ○児童が、間違いや失敗に対して否定的な反応をせず、自然に援助し合えている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
(2)人権を大切に作る学校づくり	◇様々な人権問題に関心をもち、自らの人権感覚を高めるように努めている。 ○児童が、様々な人権問題に関心をもち、学ぶことができるように、日々の教育活動やたんぽぽ学級の活動を計画・実施することを通して教職員の共通理解が図られている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り	B	・他学年や過去の道徳実践を参考にして、教材や授業づくりに努める。また、学級公開週間で道徳の学習公開も積極的に行う。 ・朝の会や学級指導の際に全体で、行動予測を話し合う場を設けるようにしていく。 ・ともだちアンケートの結果等を生活指導委員会、いじめ・不登校対策委員会等で全職員の共通理解を図る。
	◇生活指導の中で、禁止ではなく励行をうながし、児童の自己指導能力を高め、いじめのない安心できる学校生活の推進に努めている。 ○いじめ・不登校の早期発見や早期対応に努めるために、職員間で課題を共通し、必要に応じて外部機関とも連携し、児童の心の居場所が保障されている。	職員アンケート 保護者アンケート		
	◇様々な体験活動を通して、心豊かな人間性の育成に努めている。 ○地域の本物に出会えるキャリア体験や、環境・福祉などの交流体験活動を取り入れることで、児童が、地域や自分を取り巻く環境に対して新たな発見ができる。	職員アンケート 児童・保護者アンケート		
	◇支援を要する児童や保護者への理解や寄り添いに努め、周囲への啓発を行っている。 ○児童の必要とする合理的配慮の観点から踏まえた指導と周囲の温かい協力により、支援を必要とする児童が設定した目標に向かって生き生きと学校生活を送っている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り		
(3)心の教育の充実	◇日々の授業や生活の中で、掲示物の精選及び必要な情報の視覚支援などのユニバーサルデザイン化を図っている。 ○児童が集中して、学習に取り組むことのできる環境づくりや、視覚的に分かりやすい支援が行われている。	職員アンケート 職員研修	A	・特別支援教育コーディネーターや通級指導教室担当のアドバイスを活用し、児童に必要な合理的配慮ができるようにすると共に適切な就学指導や教育相談ができるよう心がける。
	◇支援を要する児童や保護者への理解や寄り添いに努め、周囲への啓発を行っている。 ○児童の必要とする合理的配慮の観点から踏まえた指導と周囲の温かい協力により、支援を必要とする児童が設定した目標に向かって生き生きと学校生活を送っている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り		
	◇支援を要する児童や保護者への理解や寄り添いに努め、周囲への啓発を行っている。 ○児童の必要とする合理的配慮の観点から踏まえた指導と周囲の温かい協力により、支援を必要とする児童が設定した目標に向かって生き生きと学校生活を送っている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り		
(4)特別支援教育の充実	◇支援を要する児童や保護者への理解や寄り添いに努め、周囲への啓発を行っている。 ○児童の必要とする合理的配慮の観点から踏まえた指導と周囲の温かい協力により、支援を必要とする児童が設定した目標に向かって生き生きと学校生活を送っている。	職員アンケート 懇談及び面談の振り返り	A	

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない×適切でない

自己評価は適切か	改善方法は適切か	課題と来年度具体的改善方法
○	○	・友達と考えが違って、それを認めることも大切である。発表する場をしっかりと確保する。 ・次年度もコロナの影響はありそうなので、高学年から、ICTを活用した遠隔授業ができるようになれば良い。 ・朝の学習は、昨年度の評価の改善になっているが、今年度の評価指標の手段にないので、次年度は指標に反映させる。 ・ICTの活用で「自ら学ぶ」ということを意識して指導する。
◎	○	・教師の失敗談を伝えるなどして、失敗体験からの立ち直り方を自ら考えるような学習の機会を設ける。 ・自分の好きなことを伝える発表会をもつ。 ・児童がみんな優しい心を持っているのは、道徳授業の充実の成果だと思うので、継続して行う。
○	○	・コロナ禍での交流をどのように維持するのが課題。 ・オンラインやPCR検査後の訪問などを検討する。 ・コロナ禍の中で、難しいとは思いますが、体験授業は子どもの成長には欠かせない大切なものである。実施方法を工夫して行う。 ・ともだちアンケートの結果等を生活指導委員会、いじめ・不登校対策委員会等で共通理解した上で、どのように対策するかまで、考える必要がある。
○	◎	・これから、どの児童も生き生きと楽しく生活できるような支援が受けられるように、校内研修の充実を図る。

(5) 家庭との連携	◇連絡帳や通信、メールシステムなどを通じて、児童の課題も善行も共有し、家庭と連携して教育活動を行っている。	職員アンケート 保護者アンケート	A	・連絡帳や電話連絡、必要に応じた面談などで、これからも家庭と連絡連携を密にとりながら子どもに関わっていく。 ・コロナ禍でもできる限り、学年通信に写真を入れて、児童の様子や協力のお礼を伝えるように心がける。	○	○	・学校での様子はよく伝わっているので、今後も継続して連絡連携を密にしていく。 ・急な雨天時の判断は難しいと思うが、一番雨風がきついときの下校は避ける。 ・メール、電話、面談など連絡が必要かどうかの判断基準を明確にする。						
	○学校の様子や児童の様子を保護者に的確に伝えることで、家庭の協力を得て、児童がよりよい学校生活を送ることができる。												
	◇児童の学習や読書の習慣、「早寝・早起き・朝ごはん運動」や健康管理などの基本的生活習慣の定着を目指し、家庭と連携して、教育活動を行っている。	職員アンケート 保護者アンケート											
	○通信による家庭への情報発信に努め、連絡帳及び健康観察カードなどの家庭とのやり取りを通じて、児童の意識付けが図られている。												
(6) 健康と安全を守る 取組の充実	◇毎月の生活目標をもとに、新しい生活様式を踏まえ、安全に留意しながら生活指導を行っている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・生徒指導担当が舵をとり、職員全員が目標や指標を共有し、指導にあたる必要がある。 ・体験活動の重視や、生活指導を通じて、児童に分かりやすい形で今後も啓発を続けていく。 ・児童の登下校の様子を絶えず見守り、声をかけ、必要に応じて指導を行っていく。	○	○	・学校での様子はよく伝わっている。今後も継続して欲しい。 ・急な雨天時の判断は難しいと思うが、一番雨風がきついときの下校は避けてほしい。 ・メール、電話、面談など連絡が必要かどうかの判断基準を明確にすると良い。						
	○児童が毎月の生活目標を意識して、学校生活を送り、終わりの会や月末の振り返りの際に8割以上の達成率を実感することができる。	職員アンケート 児童・保護者アンケート											
	◇児童の危険回避能力向上のため、工夫して教育活動を行っている。												
	○各学級及び全体への防犯、防災、交通安全指導や、必要に応じて登校班への安全指導を行い、児童が自分で自分の身を守ろうとする意識が高まっている。												
	◇施設設備の整備や安全点検、危険箇所の営繕補強に努めている。	職員アンケート 毎月の安全点検											
	○学校安全計画に基づいて、施設設備の整備や危険箇所の営繕補強がされていて、危機管理マニュアルの徹底がされている。												
	(7) 信頼される 開かれた学校作り	◇地域への情報発信に努められている。						職員アンケート 保護者アンケート	B	・坂越っ子アート展や音楽学習発表会の動画、写真展示が好評だったので普段の学校生活の様子の紹介ができるような掲示等の工夫をしていく。	○	◎	・登下校の様子の把握は教師や保護者には難しいと思う。地域の住民がよく見ていると思うので、地域住民から声を聞く機会やアンケートの実施を行う。 ・朝の挨拶やトイレのスリッパを揃えることが身に付かないのは家庭でのしつけにあると思うので、もっと保護者の協力を呼びかける。例えば、朝起きて、顔を見て「おはよう」と挨拶することや、家に帰ったときに自分で靴を揃えることなど、親から子どもに一つ一つ言ってもらう。 ・さまざまな事例や体験を通して危険感受性の向上を図る。
		○学校だよりや学校HP等、オープンスクール等を通じて、学校の教育活動が地域に紹介されている。						職員アンケート 児童・保護者アンケート					
◇地域の自然、文化、歴史、人、もの、ことと関わる体験や学びを大切にし、地と連携し、教育活動を行っている。													
○生活科や総合学習の中で、地域について知る学習や郷土のよさを生かした体験活動及びゲストティーチャーによる指導が行われている。													
(8) 参画と協働の学校運営	◇学校運営協議会制度(コミュニティスクール)や地域の協力を得ながら学校運営が行われている。	職員アンケート 保護者アンケート	A	・コロナ禍の中でも、会を適切に設け、管理職を中心に、教職員及び地域の方々の理解や協力を得て学校運営を進めていく。	◎	◎	・学校生活を知る方法、写真や動画をもっと見たい。学年別に親が体育館で動画を観る参観日などの実施を検討する。 ・次年度はオープンスクールを実施できると良い。 ・地域の良さを知る学習を多く取り入れる。						
	○学校運営協議会や、地域の学校教育を支援する方々の協力を得ながら、皆の意見が大切にされている。												
(9) 組織としての 学校運営	◇学校教育目標の具現化をめざし、必要な報告・連絡・相談を適切に行い他の職員と協働して組織的に教育活動を行っている。	職員アンケート	B	・必要なことが報告、相談、共通理解できるように、集会や会議を適宜設定する。クラスの課題等を共有、相談しやすい温かい雰囲気づくりを心がける。 ・希望調整を行い、学級公開週間を計画的に実施していく。	○	◎	・報告、連絡、相談を基本とし、一人で抱え込まない職場づくりに努める。 ・一人一人が組織の一員である意識をもって、協力連携して行動する。						
	○職員集会や会議の場で、各状況を報告し合い、職員が指示事項を共通理解し、全教職員で全児童に関わる体制づくりがなされている。	職員アンケート 職員研修											
	◇児童の学びに寄り添う授業研究や教職員の資質向上や専門性を高めるための研修を行っている。												
	○学級公開週間や校内の研修の機会を利用して、系統性のある授業づくりや学習規律の定着に生かしている。												
(10) 子どもと向き合う 時間の確保	◇校務の精選、教育課程の工夫などによって、児童に向き合える時間を確保するよう努めている。	職員アンケート 児童・保護者アンケート	B	・児童一人一人に向き合える時間を増やすため、業務改善が可能なものについて、意見を出し合い、改善していく。	◎	○	・職員の異動があるので、新しく来た職員との交流の場を設定する。 ・ICTを積極的に活用したり、行事や会議の精選をしたりして、教職員が心のゆとりを持てるようにする。						
	○児童とともに活動し、児童の話に耳を傾けている。												

自己評価における特記事項	項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法
・学力向上を目指して、ICT端末の活用も含めた講師招聘の校内研究授業を年3回実施し、学年の授業公開を行うことで、児童の主体的に学ぼうとする意欲を高め、授業改善に取り組んだ。 ・コロナ禍においても、児童が生き生きと活動ができるように、体験活動や行事、その他の教育実践を工夫して行った。児童は、制限がある中でも、充実した学校生活を送ることができたと感じていることが、児童アンケートの結果からうかがえる。 ・生徒指導上の課題は生徒指導担当を核として、担任一人に抱え込ませないように、チームでの指導を行うことで、効果を上げている。また、毎月の生活目標に向かって、全校で取り組むことで規範意識の身につけにくい児童にも効果的だと思われる。	・学校評価の改善が、次年度に生かされていない項目があるので、しっかりと反映していく。 ・集団への適応が難しいのか生活の乱れなのか不登校傾向の児童が気になる。高学年、中学生になる程、顕著であるように思うので、サポートや手立てが必要。